創世紀2章4節～２章25節

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責：T

前回：1章～2章3節まで・・・

6日間で世界、動植物、人間が創造され、7日目に神が休息した。

Q1.2章4節～5節

　「これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。」とありますが、既に1章～2章3節において、植物や人間は創造されていたはずです。何故このような記述があるのでしょう？

マ：最初のセイケンのときに山本先生が言っていたのによれば、主語が違う。

　「主なる神」と「神」

T：ヘブライ語の記述では複数回繰り返すという特徴もある

滝：ざっと概要的なものに触れる、という意味もあるのではないか

2章8節「東の方のエデン 」・・・「エデン」は中東地方の古代語で「平地」という意味。

Q3.エデンというのは地球上に実在する（あるいは実在した）場所だと思いますか？あるいは象徴的な表現だとすると、どのような場所、あるいは状態を指しているのでしょうか。

実在したと考えている人

は、け、五、滝

ハ：場所としてあって欲しい笑。思ったよりも聖書の記述がリアル。
T：川の名前が実在する川を指しているという研究もあります。（アルメニアとか）

実在していないと考えている人
S：どういう場所かと聞かれたら、イメージとしては楽園っぽいイメージ。あるとは思えない。

I：楽園という印象をもっていて、これは神様サイドにあるような気がする。神聖な空間。

象徴しているとすればどんなものを象徴として表しているか。
滝：満たされた状態。必要なものがある。
I：（人間が）ペットのような状態。ケージとかそういう環境がエデン。
け：荘園が近い。考えずに耕していれば食べるのに困らない。

追加質問

五：１２節の金について。この旧約聖書になぜ俗物のような印象を与える金という記述があるのだろうか。

け：この時点で二人しかいないのに何故金？金は他人がいて評価されるもの。

T：記述に現実味を持たせるための記述だと思った。

ハ：地理的な記述

Q4.どうして「善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」のでしょうか？（「必ず死ぬ」から、以外で・・・善悪の知識の木の実を食べると、どうなるのか？）

ツ：神様にとって不都合だから（神様が管理できない）

S：人間が知識を持ったら何かよくないことが起こると思っているから。

　でも個人的には食べることは悪いことではなくて、神様は人間のことを試しているような気がする。

知識の実を食べるとどうなるのか？

人間としての自我が出来てしまう。自分で善悪の判断をしてしまって、神から離れてしまう。

Q5.何故食べてはならない実をつける木を神はわざわざ人の手の届くところに作ったのでしょうか？

五：最初に思ったのは、神様が人間を試しているという考え。もう一つはエデンの園が色々な種類の実がなっていて、全部揃えたかった。

ハ：神様が人間を試すっていうのは自演じゃないの？わざわざなんでこんな形をして試したのか。もうひとつは脅しとして死ぬ、っていうのは怖いということは分かっていることがなにかあると思う。

I：善悪の知識がついていないのに、食べることは悪いっていう評価はできるのか、っていう部分もある。

→滝：小さいがきんちょのとき、悪いかどうかは判断は出来なかったんだけども、怒られるか怒られないかで判断した。だからこのときの人間も一緒なんじゃないか。

五：実は善悪の木はただの木で、実は善悪はもともとあって、人間を試してるんじゃないか！？

I：がきんちょの判断の方法について、信用しているかどうかっていうのは「だめ」って言ってる人を信用できるかどうか。だからこの場合も神が人間が自分のことを信用するかどうかって試した。

マ：人をこの世界の支配者にしているような気がする。いい支配者か試すためにこういう試練を作ったのではないか。

T：やはり神は失敗することが分かっていたと思う。

山本先生：これは子供の話だけだろうか。どっちも正しいという状況において、正しさっていう判断の基準が分かれている。意思決定、善悪の判断っていうものは共通に認めることは出来ない。正義が曖昧になっているのが現代。個人の持つ正義に我慢するしかない。

ロールズ

神は善悪の知識をもっていて、そして善悪は存在する。

善悪が存在しないのかそれとも知らないのか。

人間と神との関係について書いてある部分。

親と子供の関係。

Q6. 2章19節では人の後に動物が創られたことになっています。これは1章とは矛盾しないのでしょうか？（Q1と同じように、複数の文書が合体したと言う説で順序の異なることの説明

はできますが、「人間が独りでいるのはよくない」から獣を作ったという因果関係が示されています。どっちが正しいのでしょうか？）

け：細かいことは気にしない！っていう読み方

・・・疑問点

（クリスチャン的には）「聖書は矛盾や誤りのない書物なのか？」

マ：読み手次第。わざと間違えて、そこを指摘させるっていう本もあるから、それと同じかもしれない。

五：人による。複数の解釈がある。

I：事象レベルでは矛盾はある。ただし、抽象論的にはなぜ矛盾を作ったのか。

では何故矛盾を作ったのか。

T：表面的な矛盾ではなく本質的な部分に注目してもらうため。

聖書に書かれていることは神の言葉。神の言葉は正しい。それを媒介している言葉に限界があって、そこで矛盾が生じる。

Q7.同じく「人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。 」とありますが、なぜ人間（アダム）に動物の命名をさせたのでしょうか？（生き物に名前をつける意味とは？）

ツ：愛着が沸くから。

滝：唯名論。

唯名論。

Q8.18節、20節に「助ける者 」とありますが、「助ける」って具体的に何をするのでしょうか？

マ：生殖行為

Q9.他の生き物（少なくとも動物）やアダムは、土から創られましたが、何故女性は男のあばら骨から創られたのでしょうか？

ツ：女性は男性ありきのものであるという話を聞いたことある。

け：どうして動物の雌に関しては言及されてないのだろう。男と女の生まれの違いについていっているのではないか。

Ｔ：精神的な次元についての違いについて行っているのではないか。

Q10.女性は男性を「助けるもの」として創られた、とあります。また、他にも「テモテへの手紙（１）２章9節～15節 」「コリント信徒への手紙（１）１４章34-36 」など、女性は男性より劣ったもの、サポート役とも取れる箇所もあります。聖書は男女差別を容認（推奨）しているのでしょうか？

Ｓ：同じ生き物としてとらえてないから差別ではない。

ハ：近代的な差別は体格差や能力という観点で行われているが、ここではそういう面に関して言及しているわけではない。だから男女差別とは違う気がする。

Ｔ：色んな論点がある

Q11.裸を恥ずかしいと感じ無かったのは善悪の知識がなかったため。

→では裸であることは「悪」なのか？（善悪を知らなければ、「悪」や「罪」、「恥」という概念は

ない？）

ハ：日本人と外人の恥と罪の違いは面白いよね。

Ｉ：服を着ることは神に似せられた自分たちの体から逃げるため。神からの決別。

裸を恥ずかしいと思うことが悪である。

ツ：善悪は相対的なものである。相手がいるときといないときの裸に対する罪の意識の違い。

ハ：神も裸を恥ずかしいと思っている。実を食べて善悪の知識を持った自分たちもそう思っている。

山本先生・あばら骨は人間の一番やらかい部分をつつむもものであるが、非常に弱いものでもある。

・ロマ書参照、恥は本来西洋にもある。聖書における恥はやはり相対的なものである。罪あるものを公的に宣言するのが恥である。恥はそうおもわなければ恥ではない。